

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101943		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協 グループホームしまど		
所在地	山口県下関市豊北町神田4611-2		
自己評価作成日	平成24年8月29日	評価結果市町受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	2012/9/18

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りを自然に囲まれ、のんびりとした静かな環境の中で生活しています。運営推進委員会を中心に地域の方々を支えられているホームです。夜間時には地域の方が、お泊りボランティアとしてホームに泊まって下さっています。また、猫の「タマちゃん」が同居していて入居者や職員の心を和ませてくれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民や家族などが運営推進会議にたくさん参加されており、実践的な避難誘導訓練を一緒に行われ、前庭や道路の砂利道にセメントを敷いて避難しやすい環境の整備をされるなど、具体的なサービス向上につなげておられます。地域の方がお泊りボランティアとして夜間の見守りを支援され、緊急時の連絡網にも入っておられるなど、地域との協力体制を築いておられます。利用者はその日の希望に沿って、散歩や買い物、地元の祭り、お大師様参りなどに出かけて馴染みの人と挨拶を交わされたり、家族の協力を得て外泊や法事、墓参り、日帰り旅行などに参加しておられ、事業所と家族と地域が一緒になって、その人らしい暮らしが保たれるよう取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「ゆったりとのんびりとその人らしく笑顔をもって 家族や地域の方との縁を大切に」を目指し、毎朝のミーティング時に職員で唱和し、日々のケアに取り組んでいる。	全職員で理念について話し合い、共有して、地域の中で継続して支援できるように、介護計画や日々のケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃作業や春秋の祭りに利用者と共に参加している。また、地域版のホーム便りを発行し地元自治会に回覧している。	自治会の清掃活動や地域の八幡宮の祭りに利用者と一緒に参加している。地域の人にお泊りボランティアや畑づくり、草取り、事業所の夏祭り、「玉ちゃん喫茶」などへの参加や協力を得ている。散歩や買い物時には挨拶を交わし、魚や野菜の差し入れがある他、地域の保育園の運動会に出かけたり、事業所の節分会や七夕まつりに園児を招くなど、地域の一員として日常的に交流している。ヘルパー実習や大学生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症についての研修を行い、認知症の人の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価を実施する意義を職員全員が理解し、また前年度の外部評価を回覧し、評価を活かした改善に取り組んでいる。	自己評価項目について勉強会を行い、全職員で自己評価に取り組んでいる。前年度の外部評価結果を活かし、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し、外部評価の結果や施設の現況報告等をし、そこでの意見を取り入れサービスの向上に活かしている。	2か月に1回、地域住民17名や家族などの多くの参加者で、開催している。現状報告、災害対策、外部評価結果等について話し合っている。避難訓練時の車イスで砂利道を避難する難しさについて意見があり、前庭や道路の整備につなげるなど、意見を活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	内部研修に講師として招き、それに利用者と共に参加することで、事業所と市町担当者との交流を深め、実情やサービスの取り組みを伝え、協力関係を築く努力をしている。	市担当課に出向いたり、電話などで、相談や情報交換をしている。地域包括支援センターとは運営推進会議の他、成年後見制度の講師を依頼したり情報交換をし、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームに身体拘束排除宣言を掲げ、日々職員間で話し合い、玄関を施錠しないことを含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、内部研修を毎年実施して、全職員は理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、声かけの工夫や一緒に散歩をするなどして安全に外出できるよう取り組んでいる。スピーチロックについても管理者や計画担当者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、日々のケアの中で職員同士が意識し防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員を講師として招き、研修を実施している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族に契約書や重要事項説明書について説明し理解・納得を図り、また改定の際には家族会開催時に説明をし理解を求めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時等に意見や要望を聴き、気付き箱も設置している。苦情の受付や処理手続きは、速やかに行なわれるよう体制を整えている。	相談、苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員を明示し、契約時に周知している。気づき箱を設置し、意見を言いやすい雰囲気を作って、家族会や面会時、電話などで意見や要望を聞いている。家族の要望で個別の面会簿を作成するなど意見を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	。職員の意見や提案は、ケア会議時または日々のミーティング時に聞く機会を設けている	ミーティングやケア会議で意見や提案を聞く他、日常的に話を聞く機会を設けている。利用者の希望にそった外出支援をするために職員体制を整えるなど、提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や勤務状況、また職場環境・条件の整備ができていないとはいえない。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には勤務の一環として参加し、他の職員には復命の機会を設け、内容を共有している。	外部研修は情報を伝え、希望に応じてや段階的に受講の機会を提供している。受講者は復命をして全職員が共有できるようにしている。年2回の法人研修、月1回の内部研修に、全職員が参加する他、新任職員は先輩職員が指導し、働きながら学べるように支援している。資格習得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会の研修や勉強会への参加等、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階の前に、本人に面会しゆっくり話しをする機会を設け、安心して生活を送れる為の関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階の前に、ホームに見学に来られた際や面会時に、不安なことや要望について聴くようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する段階で、本人や家族の思いや困っていることに耳を傾け、必要に応じて他のサービスの紹介もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや野菜作り、また草取りの仕方等利用者に教えてもらったり等、お互い支え合いながら生活をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や夏祭り等の行事に参加していただき、職員だけでなく家族と共に一緒になって支援できるよう働きかけている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅訪問や寺参り等、本人が大切にしてきた関係を途切れさせないよう、支援に努めている。	友人、知人、親戚の訪問がある他、利用者が自宅や友人宅を訪ねている。寺参りや町の文化祭に参加して馴染みの人と声をかけあったり、漁協や馴染みの店での買い物時に挨拶を交わしたりしている。家族の協力を得て、外泊や法事、墓参り、食事など馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、また支え合える関係が築けるよう、職員は利用者一人ひとりを把握し、さりげなく支援するよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、広報を送ったり、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや意向を把握するよう努め、また家族からも情報収集し、ケア会議や朝のミーティング等で検討している。	契約時に本人や家族と面談して希望や思いを把握する他、日々の関わりの中での言葉や行動、家族や知人からの情報をミーティング時に話し合い、ケース記録に記載して共有し、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から聞き取りしたことを個別にファイルし、また日々の関わりの中で得た情報をケア会議等で職員全員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やバイタルチェック表などで、心身の状態の把握に努めている。毎朝の顔色をしっかりと見るようにも気をつけている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議時には、できるだけ家族にも参加していただき、本人がより良く暮らせるために、意見を出し合い、本人の「今」を大切に介護計画を作成している。	本人、家族の意向や意見、主治医の意見を反映した介護計画を作成している。月1回、担当者を中心にモニタリングを行い、半年に1回見直しをしている。「24時間生活変化シート」を活用し、状態の変化や必要に応じた見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った個別記録の様式にしている、実践や気づきがわかりやすいようにしている。また、特に変わったことがあれば業務日誌に記録し、職員間での情報共有に努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の支援、友人宅への訪問等柔軟な支援ができるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の女性部が主催している「木目込み教室」に参加したり、町主催の「文化祭」を見学したり、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別にかかりつけ医の往診があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としており、2週間に1回や1か月に1回の往診があり、救急時や夜間対応の協力を得ている。他科の受診は家族と協力して支援しており、受診結果は医療記録表で共有する他、併設施設の看護師に相談するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内のデイサービスに看護師が常駐しており、必要に応じ気軽に相談できている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、情報交換や相談をしっかりとしている。また、退院後に気をつけること等、主治医に必ず確認している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針については、入所時や家族会で説明し、共有していただいている。	重度化した場合の事業所ができる対応について、医療機関への移設を含めて、契約時に家族に説明し、同意を得ている。早い段階から本人・家族、主治医らと話し合いを行い、方針を共有して、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日々の関わりの中で、職員がヒヤッとしたこと等報告書を記入し、それについての対策を話し合い職員全員で事故防止に取り組んでいる。急変時の対応や応急手当については、消防署の指導の下、訓練しているが実践力を身につけるまでには至っていない。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その場の職員が対応策を検討し、翌朝のミーティングで話し合っている。ヒヤリハット検討会議の内容を個別の介護計画に反映して、事故防止に取り組んでいる。マニュアルがあり、全職員が消防署の指導による救急救命法の講習や法人のリスクマネジメント研修を受講しているが、初期対応の実践力が身につくまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方との避難訓練や緊急連絡網等で、協力体制を築いている。	年2回、昼夜を想定し、消防署の指導により、運営推進会議の出席者(約20人)やお泊りボランティア(5人)の参加を得て避難誘導、通報訓練を実施している。非常災害時対応マニュアルがあり、地域の協力者やボランティアが緊急連絡網に入っており、懐中電灯や鍵の置き場所の検討など、緊急時の具体的対応についても地域の人と一緒に検討し、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、その人その人に対する言葉かけや対応をしている。	職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解し、入浴時や排泄誘導時にも目立たずさりげない言葉かけや対応に取り組んでいる。管理者が気づいたことはその場で指導し、ケア会議で話し合いをしている。守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の働きかけで自分の思いや希望を表し、自己決定をしていただいている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースや思いを大切に、その人らしい生活が送れるよう、希望に沿えるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに、二ヶ月に一度訪問美容師が来る。また、毛染めの希望があれば、いつでも対応するようにしている。 季節ごとに家族の協力も得て、衣類の整理をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの決定や調理、盛り付け、配膳、片付け等利用者と職員が共にしている。	朝食と夕食、週2回の昼食を事業所で作っている。差し入れの魚や野菜、収穫した野菜など、新鮮な食材を利用し、調理している。利用者は下ごしらえや味付け、盛付け、配膳、片付けなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、昼食を作る日には同じものを一緒に食べる他、誕生会や季節の行事食、花見の弁当、夏祭りの屋台、おやつづくりなど食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量は個別に記録しチェックしている。一人ひとりの状態に合わせて、食事の形態を考えている。(お粥、刻み、とろみ剤の使用等)		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指導もあり、毎食後口腔ケアをしている。就寝前には、義歯を預かり消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、一人ひとりの排泄パターンや排泄サインを把握し、自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用し、排泄のパターンや習慣を把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、寒天、繊維質の食材を多く取り入れるよう心がけている。日々の生活の中で、散歩や軽運動ができる時間を持つよう努力している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	通常、夕食後に入浴を行なっているが、希望やタイミングに合わせて、個々に応じた柔軟な対応ができるようにしている。また、日帰りの温泉旅行も実施している。	17時45分から19時までを入浴時間とし、一人ひとりの希望や状況に応じて、二人で入浴したり、シャワー浴、足浴、清拭などの支援をしている。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯などでゆっくり入浴したり、年に1度の温泉旅行などを楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状況に合わせて、休息支援をしている。また、安眠できるよう寝具の清潔にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からもらっている服薬表を職員全員が見て把握している。 症状の変化があった場合は、すぐに主治医につなげている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏祭りで、趣味の大正琴の演奏や銭太鼓、歌の披露をする等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	利用者は寒餅づくり、芋ほり、草取り、畑づくり、魚のさばき、手拭やハンカチたたみ、職員と近所に木目込みを習いに行ったり、ボランティアのハーモニカの演奏で歌を歌って楽しんでいる。夏祭りで披露に向けて、玉ちゃん喫茶で大正琴や銭太鼓の練習をするなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の希望に沿って、近所の散歩やドライブ、買い物等できるようにしている。また、花見や梨狩り、外食等のバス旅行にも出かけられるよう支援している。	お大師様や寺参り、地元の島戸祭り、土井ヶ浜ミュージアム、道の駅や角島へのドライブ、花見(桜、菖蒲、紫陽花、コスモス)、梨狩りなどに出かけ、家族の協力を得て外食や家族会での日帰り旅行を楽しめる支援をしている。その日の気分に沿って散歩や買い物にも出かけている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの預かり金の中から、家族に了解を得て、希望に応じて買い物ができるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自由に電話を使用できる体制をとっている。手紙のやり取りをされている方は、現在おられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けたり、花や野菜が窓越しに観賞できるよう、花壇や畑の整備を利用者と共に行い、居心地よく過ごせる環境作りに努めている。	玄関には季節の花や木目込みの作品が飾っており、靴が履きやすいように椅子を置いている。事務室と台所を中心に回廊式となっており、作り付けの椅子やソファや畳の間が配置しており、利用者が自由にくつろげる場所となっている。食卓のそばの掃出しの窓から山や桜の木、畑などの風景が見え、出入りもしやすくなっている。日よけに朝顔を植えるなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせるよう、ホーム内のあちらこちらにソファや椅子を配置している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の持ち込みをしていただいたり、本人や家族の写真を貼ったりして、本人が居心地よく落ち着いて過ごせるようにしている。	テレビ、コタツ、いす、机、タンス、ソファなどを持ち込み、時計、カレンダー、写真、手作りの作品など好みの物を飾って、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の壁や戸に場所や矢印を書いて貼ったり、柱や角にはカラフルなテープを貼る等の工夫をし、一人ひとりが安全に自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 下関市社協グループホームしまど

作成日: 平成 25年 1月 4日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	急変時の対応や応急手当について消防署の指導の下訓練しているが、実践力を身につけるまでには至っていない。	職員一人ひとりが、実践力を身につける。	年2回の避難訓練時だけでなく、同事業所内の看護師から、急変時の対応について指導を受け、繰り返し訓練する場を設ける。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。